

ピアノ

芥川龍之介／著
LOWRISE／絵

或雨のふる秋の日、わたしは或人を訪ねる為に
横浜の山手を歩いて行った。



この辺の荒廃は震災当時と殆ど変わっていなかった。もし少しでも変わっているとすれば、それは一面にスレートの屋根や煉瓦の壁の落ち重なった中に藜の伸びているだけだった。

現に或家の崩れた跡には蓋をあけた弓な
りのピアノさえ、半ば壁にひしがれたま
ま、つややかに鍵盤を濡らしていた。の
みならず大小さまざまな譜本もかすかに
色づいた藜の中に桃色、水色、薄黄色な
どの横文字の表紙を濡らしていた。